

社団法人 石油学会

平成14年度 事業報告

1. 庶務事項

(1) 役員の登記手続き

平成14年5月23日就任の新役員の登記手続きは6月に終了した。

2. 会員数の状況

平成14年度末(平成15年3月31日)と前年度末の会員数を比較すると次表のとおりである。

項目 会員別	平成14年 3月31日現在	平成14年度会員数の増減			平成15年 3月31日現在
		増	減	増または減	
名誉会員	23	2	1	1	24
普通会員	3646	142	278	136	3510
学生会員	204	99	101	2	202
小計	3873	243	380	137	3736
維持会員					
1級	23	0	1	1	22
2級	14	0	1	1	13
3級	49	1	4	3	46
4級	38	0	4	4	34
5級	211	3	16	13	198
小計	335	4	26	22	313
公共会員	37	0	1	1	36
総合計	4245	247	407	160	4085

3. 会務の会合

平成14年度の各種会合数は次表のとおりである。

会 合 名	数	会 合 名	数
通 常 総 会	1	資 源 部 会 (含幹事会)	4
評 議 員 会	1	精 製 部 会	24
理 事 会	4	石 油 化 学 部 会 (含勉強会)	8
顧 問 会	1	製 品 部 会	2
運 営 会 議	5	討 論 会 準 備 委 員 会	2
財 務 委 員 会 (書面審議)	2	ガソリン分科会	18
役員等候補者選定委員会	1	燃料油分科会	16
職員人事委員会	3	潤滑油分科会	21
支 部 長 会 議	1	絶縁油分科会	14
会 員 拡 大 委 員 会	1	アスファルト分科会	3
広 報 委 員 会	2	試 験 分 析 分 科 会	8
情 報 専 門 委 員 会	2	装 置 部 会 (含討論会準備委員会)	14
ペトロテック編集委員会	11	設 備 維 持 規 格 委 員 会 (含WG)	42
Working Group 委員会	52	機 器 分 科 会	18
石油学会論文誌編集委員会	6	配 管 分 科 会	45
刊 行 委 員 会	0	設 備 保 全 分 科 会	9
研究・技術企画委員会 (含小委員会)	3	計 装 分 科 会	25
国 際 委 員 会	4	電 気 分 科 会	23
表 彰 委 員 会	2	保 安 分 科 会	2
表彰推薦委員会	2	エ ネ ル ギ ー 部 会	1
表彰選考委員会 (含小委員会)	8	経 営 情 報 部 会 (含WG)	24
石油・自動車技術懇談会	0	溶 接 士 検 定 委 員 会 (含表彰)	2
教 育 委 員 会	3	基 準 改 訂 小 委 員 会	5
受託研究(事業)委員会(含評価委)	4	標 準 試 料 委 員 会	3
重質、軽質、低環、触媒、次世代WG委員会	12		
海外協力分科会	4		
備蓄タンク方式指針	3	合 計	471

4. 講演会、討論会、研究発表会ならびに見学会等の実施

月	日	曜	名 称	開催地	講演数	参加者
平成 14 年						
5	23	水	第 43 回通常総会、第 45 回年会 - 受賞講演、特別講演、懇親会	東京	8	150
	24	木	受賞講演、第 51 回研究発表会、JPIJS ポスターセッション		120	267
6	7	金	第 22 回絶縁油研究発表会、懇親会	京都	8	94
8	29	木	第 2 回回転機研究討論会	東京	8	100
10	11 12	金 土	高山大会 特別講演、第 32 回石油・石油化学討論会、懇親会	高山	248	419
10	22 23	火 水	21st JPI Petroleum Refining Conference "Recent Progress in Petroleum Process Technology"	東京	14	120
11	12 13	火 水	第 10 回日中石油精製研究・技術交流会	大阪	26	60
11	26	火	触媒シンポジウム 「ｸﾘｰﾝﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑと新規材料を創り出す触媒技術」	東京	6	53
12	4 5	水 木	石油製品討論会 " 「次世代の環境対応石油製品における評価技術の進歩」	東京	23	127
12	15 16	日 月	第 12 回日本-サウジ合同セミナー	ダラン市	26	120
12	18 19	水 木	第 33 回装置研究討論会 「長期連続運転における設備管理の最適化」	東京	15	159
平成 15 年						
1	12 13	日 月	第 5 回日本 - クウェート研究交流会	アラブ首 都市	7	50
2	13	木	「第 28 回精製パネル討論会 (APC 導入と維持管理体制・軽油の超深脱 (50ppm) の対応状況と水素ネットワーク、更にサルファーフリーに向けて・製油所の安全操業に向けた取り組み)」	東京	3	132
2	20	木	第 3 回電気研究討論会	東京	6	103
3	6	木	第 20 回計装研究討論会	東京	6	138
3	24	月	エネルギー部会講演会「水素クリーンエネルギー社会の構築を目指して - 水素製造技術の現状と課題 - 」	東京	7	134

5. 会務部門

(1) 支部活動

北海道、東北、東海、関西、中国・四国、九州・沖縄の6支部があり、活動は次表の通りである。

年	月	日	名 称	開催地	講演数	参加者
北海道支部						
14	7	19	夏季研究発表会、日本化学会北海道支部共催	旭川	103	167
14	12	4	第3回北海道支部講演会、日本I社 [®] -学会共催	室蘭	2	40
15	2	3	第3回北海道支部研究発表会、日本I社 [®] -学会共催	札幌	12	41
東北支部						
14	11	8	第22回東北支部講演会・懇親会	山形	3	80
東海支部						
14	11	5	東海化学工業会セミナー共催	名古屋		50
14	10	11	高山大会・第32回石油・石油化学討論会を支援	高山		
		12	"			
14	11	29	技術交流会	四日市		27
関西支部						
14	5	22	研究機関見学会(大阪ガス)	大阪		14
14	9	3	第9回学生企業見学会 (日本触媒姫路製造所)	姫路		18
14	11	11	第10回日中石油精製研究・技術交流会を支援	大阪		
		12				
14	12	6	第11回研究発表会(日本I社 [®] -学会共催)	京都	23ポスター-9	74
中国・四国支部						
14	11	28	第23回中国・四国支部講演会・懇親会	小郡	5	55
14	12	6	第7回技術交流会	今治	12	64

(2) 広報活動

ホームページ (<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jpi/index.html>) の内容の拡充を行った。

大会、研究発表会の広報活動及び広告拡大の検討を行った。

(3) ジュニア・ソサイアティ (JPIJS) の活動

a) 5月24日(金)開催の、第51回研究発表会において、第7回ポスターセッションを開催。参加28件のうちから投票により、ベストポスター賞(東工大、山田知佐氏他)、ベストデザイン賞(東農工大、李載永氏他)をそれぞれ選出、表彰を行った。

b) 12月2日(月)・3日(火)、第1回JPIJSシンポジウム「21世紀の石油産業」を新日本石油(株)社員研修センターにて開催。講師3名(特別講演3件)、一般発表9件、参加者35名。

c) ペトロテック各号にJS便りを掲載した。

d) その他全国において次表の活動をした。

年	月	日	名 称	開催地	講演数	参加者
東北地区						
14	11	1	講演会	仙台	1	15
14	11	22	講演会	仙台	1	18

関西地区														
14	10	18	関西地区宿泊セミナー							芦屋	4	23		
九州地区														
14	10	3	セミナー&見学会							北九州エ コタウン		13		

6. 学術刊行部門

(1) 一般誌(ペトロテック月刊)を発行し、会員に配布したほか、一部外部に頒布した。

1) 各月の主な内容は次のとおりである。

	14年										15年			合計 件数
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
時評・会長あいさつ	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
座談会	1	1	1	1	1	1	0	1	1	0	1	1	1	10
一般総説・資料	9	10	10	6	9	9	11	8	10	9	8	8	8	107
プロセス紹介	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2
メジャーオイルの戦略とその系譜	0	0	0	0	0	0	0	2	1	1	1	1	1	6
社会人ドクター	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
私の留学体験・海外昔話	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
これも私の生きる道	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
私事白書	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
辛口放談	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
英語酒飲み話2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
石油豆知識	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	8
PECだより	2	1	0	0	1	2	2	2	2	2	2	2	2	18
JPIJSだより	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
学生に聞く・各世代に聞く	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
資格にチャレンジ	3	3	3	3	3	3	3	3	3	0	0	0	0	27
今月の一口メモ	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	48
新刊紹介・書評	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	2	0	0	4
統計	1	1	1	1	1	1	13	1	1	1	1	1	1	24
全頁数	80	80	86	78	86	90	90	80	90	84	86	76	1006	

2) 特集記事を以下のとおり掲載した。

平成14年6月号「ソノケミストリー」、8月号「石油精製からみた新エネルギー」、
10月号「炭素ナノ材料とナノテクノロジー」、12月号「創刊300号記念」、
平成15年1月号「第32回石油・石油化学討論会」、2月号「ガス吸蔵体の研究動向」、
3月号「吸着剤・吸着技術の最近の動向」

3) その他毎月、国内・海外の最近のニュース、解説記事、学会活動を報告する「学会の窓」を掲載した。また、甲辞、トピックス、論文誌掲載論文要旨などを適宜掲載した。

- (2) 論文誌(隔月刊)を発行し、維持会員(535部)、公共会員(34部)および普通会員・学生会員中購読希望者(343部)に配布したほか、外部に各号85部を頒布し、国内に50部、海外に77部を寄贈している(平成15年3月末日現在)。平成14年度の掲載内容は次のとおりである。

巻数	45巻				46巻		合計
	3	4	5	6	1	2	
総合論文	-	1	1	2	2	-	6
一般論文	7	5	6	7	6	6	37
ノート	1	2	-	1	-	4	8
技術報告	1	-	-	1	1	-	3
レター	-	1	3	1	1	-	6
投書	-	-	-	-	-	-	-
件数合計	9	9	10	12	10	10	60
全頁数	69	63	68	93	85	67	445

7. 研究・技術交流部門

(1) 表彰

石油学会表彰規程ならびに野口記念賞表彰規程により、学会賞2件、論文賞2件、技術進歩賞2件、奨励賞2名、学会功労賞2名、野口記念奨励賞4件の授賞を決定した(詳細は報告事項1.参照)。なお、石油学会功績賞、野口記念賞については該当なしと決定した。

(2) 教育委員会

大学生(院生を含む)、石油関連業者、一般市民等を対象として、石油に関する基礎知識、とりわけ実務面から理解を深め石油に対する興味を高めてもらうため、移動大学「石油関連セミナー」を石油連盟の支援の下に、全国で10大学、講義数49コマを実施した。本年度は全農(JA)岐阜県本部部課長セミナーにおいて、自動車用燃料油の動向に関する講座を開講し、大学を含め、聴講延べ人数約4,690人であった。平成9年度から通算すると総コマ数299コマ、聴講延べ人数27,300人に達している。

(3) 国際交流

- 1) 受託業務のうち、産油国との現地交流として第12回日本-サウジ合同セミナーが平成14年12月15日(日)、16日(月)にKFUPM(King Fahd University of Petroleum & Minerals)で開催された。日本側から9件の発表を行い、サウジ、欧米からの発表を含め全部で26件となった。また、第5回日本-クウェート研究交流会が平成15年1月12日(日)、13日(月)にKISR(Kuwait Institute for Science & Research)で開催された。日本側から3件、クウェート側から4件の合計7件の発表があった。

産油国研究者の受入ではサウジアラビアのKFUPMから2名、KAAU(King Abdulaziz University)から1名、KACST(King Abdulaziz Science & Technology)から1名、クウェートのKISRから2名の合計6名を大学、企業及び産総研に受け入れた。

- 2) 中国石油学会と共催で、第10回日中石油精製研究・技術交流会を平成14年11月12日(火)、13日(水)に大阪国際会議場で実施した。中国側の16名を含めて60名が参加した。交流会後、中国石油学会は11月14日(木)に京都大学、11月15日(金)にコスモ石油・堺製油所を訪問・視察した。

(4) 受託業務

1) 平成12年度から引続き、次の受託業務を実施した。

本年度にて全ての大学への委託研究は終了した。

- a) (財)国際石油交流センターから「高機能触媒技術の研究」の重質油研究として水素化分解、脱硫、脱窒素、接触分解、熱分解及び重質油の構造解析等で14件。
 - b) 同じく「高機能触媒技術の研究」の軽質油研究として、アルキレーション、異性化、軽油の脱硫等で7件。
 - c) (財)石油産業活性化センターから「環境調和型新燃料製造触媒開発のための基盤技術に関する調査」として、フィッシャー・トロプシュ法、合成ガス製造法等で9件。
 - d) 同じく「環境改善型プロセス開発のための革新的触媒基盤技術に関する調査」として、燃料電池用改質触媒等で6件。
- 2) (財)石油産業活性化センターからの受託調査「次世代環境対応型石油燃料の高度精製技術に関する調査」として、超クリーン燃料製造技術関連分野、ならびに環境対応型の高度精製技術関連分野に関する我が国の研究者ディレクトリーの作成、高山大会パネルディスカッションの開催、米国・欧州での短期・中期・長期エネルギー研究開発動向調査等を実施した。
- 3) (株)石油産業技術研究所から 国産乗用車のオクタン価要求値試験、ディーゼル車の燃料供給システム調査、超低硫黄軽油信頼性評価試験について受託し、調査・試験を実施した。
- 4) (財)国際石油交流センターから「産油国石油精製技術等対策事業」として、産油国研究者の受入、産油国研究者との現地交流の調査・研究を実施した。
- 5) 石油公団からの受託研究「備蓄タンク方式の技術指針作成に関する業務」として、洋上タンク技術指針(英語版)を作成した。

(5) 外部団体との共同活動

日本エネルギー学会と共催で平成15年3月24日(月)に「エネルギー部会講演会(水素クリーンエネルギー社会の構築を目指して - 水素製造技術の現状と課題 -)」を企画し、実施した。

(6) 外部団体に対する協力

他学協会、その他の団体から事業の共催、協賛などの依頼を受けて積極的に協力した。

8. 部会部門

(1) 資源部会(地質、探鉱、開発、生産、環境)

平成14年10月11日(金)、12日(土)に開催された「第32回石油・石油化学討論会」において「石油・天然ガスの開発」のセッションを企画し、協力した。

(2) 精製部会(プロセス、製油、環境)

- 1) 平成14年10月22日(火)、23日(水)に「21st JPI Petroleum Refining Conference “Recent Progress in Petroleum Process Technology”」を企画し、実施した。
- 2) 平成15年2月13日(木)に「第28回精製パネル討論会(APC導入と維持管理体制・軽油の超深脱(50 ppm)の対応状況と水素ネットワーク、更にサルファーフリーに向けて・製油所の安全操業に向けた取り組み)」を企画し、実施した。
- 3) 第27回精製パネル討論会会議録(平成14年2月14日(木)開催)を発行した。
- 4) 平成14年7月12日(金)に白島石油備蓄(株)の見学を実施した。

(3) 石油化学部会(ケミカルプロダクツ、反応・分離、バイオテクノロジー、触媒、環境)

- 1) 平成14年10月11日(金)、12日(土)に開催された「第32回石油・石油化学討論会」において以下のセッションを企画し、協力した。
 - * 石油・石油化学における新しい触媒技術
 - * 石油・石油化学産業とバイオ技術
 - * 反応分離の科学と技術
 - * ケミカルズ合成技術の新展開
- 2) 平成14年11月26日(火)に「触媒シンポジウム クリーンエネルギーと新規材料を創り出す触媒技術」を企画し、実施した。
- 3) 次のテーマで専門の講師を招き、勉強会を実施した。
 - * 石油汚染土壌の修復技術(門倉伸行氏・熊谷組)
 - * 新しい分子触媒の開発 - 反応性有機金属錯体の設計からのアプローチ(永島英夫氏・九州大)
 - * 分子を鋳型とする化学蒸着法による分子ふるいシリカ層の調製(片田直伸氏・鳥取大)
 - * 好熱性メタン資化菌による気相反応によるメタン-メタノール変換(竹口昌之氏・沼津高専)

(4) 製品部会(分析、試験、製品開発、環境)

- 1) 平成14年12月4日(水)、5日(木)に「石油製品討論会(次世代の環境対応石油製品における評価技術の進歩)」を企画し、実施した。
- 2) ガソリン分科会
 - a) (株)石油産業技術研究所の依頼により、第44次オクタン価要求値試験を実施した。
 - b) ポストONR試験の代替法について検討を行った。
- 3) 燃料油分科会
 - a) (株)石油産業技術研究所の依頼により、軽油低温流動性実車試験を行った。
 - b) (株)石油産業技術研究所の依頼により、軽油潤滑性試験方法の検討を行った。
- 4) 潤滑油分科会
 - a) エンジン汚れ評価法のJPI規格普及のため、レイティングシンポジウムおよびワークショップを開催した。
 - b) 自動車用ギヤ歯面損傷の評価に関するシンポジウムを実施した。
 - c) JPI-5S-36-2003 [潤滑油高温高せん断粘度測定方法] を改訂した。
 - d) JPI-5S-41-93 [エンジン油蒸発性試験方法(NOACK法)] の見直し作業を行った。
 - e) JPI-5S-42-93 [エンジン油低温粘度(MRV法)試験方法] の見直し作業を行った。
- 5) アスファルト分科会
SHRP(新道路研究計画) バインダー試験方法について検討を行った。
- 6) 絶縁油分科会
 - a) 平成14年6月7日(金)に「第22回絶縁油研究発表会」を企画し、実施した。
 - b) 電気特性測定方法のJISとIECの試験装置の違いについて検討を行った。
 - c) 絶縁油の劣化と電気特性の低下に関し、メカニズム、測定法等の検討を行った。
 - d) 小型変圧器絶縁油保守管理指針を作成するための調査を行った。
- 7) 試験分析分科会

- a) JPI-5S-64-2002 [石油製品の塩素分析方法] を制定した。
 - b) JPI-5S-63-2002 [石油製品の微量硫黄分分析方法] を制定した。
 - c) ICP法による硫黄分、鉛分試験方法について検討を行った。
 - d) 石油製品中のCHN分析法の検討を行った。
 - e) 石油製品中の水分試験方法について検討を行った。
- (5) 装置部会 (装置、機器、その他付帯設備、配管、材料 (腐食防食、強度)、計装、制御、電気、保全、安全、環境)
- (5-1) 装置委員会
- 1) 平成14年12月18日(水)、19日(木)に「第33回装置研究討論会 (長期連続運転における設備管理の最適化)」を企画し、実施した。
 - 2) 機器分科会
 - a) 機器分科会関係規格の見直し検討を行い、次の5規格を次年度見直しすることとした。
 - * JPI-7S-8-96 [塔類プラットフォーム及びラダー]
 - * JPI-7R-35-96 [スカートを有する塔そう類の強度計算]
 - * JPI-7R-52-96 [横置容器サドル周り強度計算]
 - * JPI-7R-53-96 [横置容器サドル]
 - * JPI-7S-80-94 [縦形容器用リフティングラグ]
 - b) 回転機専門委員会にて次の活動を実施した。
 - * ポンプ規格調査WG活動は終了し、活動結果を「遠心ポンプのユーザ規格比較検討調査結果について (信頼性と経済性の調和への提言)」としてペトロテックへの投稿原稿を作成した。
 - * 信頼性向上WGではユーザ各社の事例情報交換を実施してきたが、本年度で一旦終了 (継続要望もあり調整中。事例集の作成や発表等今後の検討課題)。
 - * 回転機研究討論会を平成14年8月29日(木)に第2回討論会を開催した。
 - 3) 配管分科会
 - a) JPI-7S-77-2002 [石油工業用プラントの配管基準] を平成14年2月に発行後、ASME B31.3b-2001 ~ B31.3a-2003 の内容を反映すべく検討中、平成15年度中に追補版発行の予定。なお、KHK S 0302 (高圧ガスの配管に関する基準) にJPI-7S-77 に規定した許容応力が参考基準として採用された。
 - b) JPI-7S-66-2002 [プレハブ配管の作成及び検査指針] を平成14年9月に改訂した。
 - c) JPI-7R-85-1998 [石油工業用バルブシール性能確認試験指] について、ヨーロッパでの規格化に対応し、配管基準専門員会とバルブ専門委員会と取り扱いを検討予定。
 - d) JPI-7S-39-2003 [バルブ検査基準] を平成14年2月に改訂した。
 - e) JPI-7S-57-2003 [軽量形鋼製小型弁] を平成14年2月に改訂した。
 - f) JPI-7S-83-2003 [石油工業用バタフライ弁] を平成14年2月に改訂した。
 - g) JPI-7S-74-2002 [アルミ合金製フランジ] を平成14年4月に改訂した。
 - h) JPI-7S-15-1999 [石油工業用フランジ] をASME B 16.5 200X DRAFT(平成14年7月) をベースとして改訂案を検討した。
 - i) バルブ-フランジの圧力温度レーティング統一についてASME B16.5 とASME B16.34での規格での温度等の取り扱いの差があり、これまでの検討事項を整理した。
 - j) 新規規格「JPI-7R-91 [配管用非石綿ガスケットの使用指針]」の作成検討を行った。
 - k) JPI-7S-90-2002 [配管の曲げ加工法] を平成14年9月に改訂した。
 - l) 平成15年1月31日(金)に第8回配管技術セミナーを開催した。
 - 4) 設備保全分科会

- a) 移動設備技術専門委員会を平成 14 年 12 月 13 日(金)に、東燃ゼネラル(株)堺工場にて外面腐食をテーマとした各社事例紹介、意見交換を行った。
- b) 平成 14 年 9 月 5 日(木)に設備保全分科会シンポジウムを「緊急補修技術とエンジニアリング」及び「脱硫装置反応塔エフルメント空冷式熱交換器周りの腐食」の 2 テーマに分けて実施した。
- c) 「石油精製装置の材料選定に関する資料」の改訂検討。
- d) 腐食防食協会・研究基盤拡大委員会、石油学会・設備技術専門委員会、および化学工学学会・化学装置材料委員会が腐食防食協会の春の年会(材料と環境 2003)で、共同のセッションで討議する場(サロン)を設置し、実施した。

5) 計装分科会

- a) 計装維持規格方針作成WGを計装維持規格の適用範囲の明確化、規格骨子の作成を目的に分科会の下部組織として設置した。平成 15 年 4 月末までに取り纏めることで進めている。
- b) 調査研究企画WGでは、「維持規格(コスモ石油・斎藤氏)」、「プラントネットワークセキュリティ(横河電機・福山氏)」、「無線ネットワークシステムの活用(富士電機・畠内氏)」の勉強会を開催した。平成 14 年 10 月 3 日(金)には、日本製紙(株)伏木工場の見学会を実施した。また、「緊急遮断システム」アンケート調査を実施した。
- c) 計装研究討論会企画WGでは、平成 14 年 3 月 6 日(木)に第 20 回計装研究討論会を開催した。
- d) 規格WGでは、安全計装システムに対するガイドライン(マニュアル、解説書)の作成を継続中。HAZOP、故障率等のデータについて各社へアンケート調査を実施した。

6) 電気分科会

- a) WG1では、「JPI 電気設備関連維持規格作成のための事前調査」をテーマに活動し、変圧器、電力ケーブルのアンケート調査票原案作成を行った。
- b) WG2では、「地絡保護の事例研究」をテーマとし、今後の研究の進め方を検討し、実質的な活動の検討を行った。
- c) WG3では、平成14年11月8日(金)に東京電力・玉原揚水発電所及び柏崎・刈羽原子力発電所見学会を実施した。また、平成15年2月20日(木)に第3回電気研究討論会「発電機のトラブルと予防保全技術」を実施した。

7) 保安分科会

「リスク・コミュニケーション・ガイドライン」作成作業を実施。回答する対象は、「社内の事務職社員や新入社員」などとしている。

概要(製油所の設備概要、危険因子、トラブル想定など)

事故を起こさないための設備対応、管理方法

事故が起きた際の住民への影響

地震等自然災害への対応

セキュリティー(不法侵入、テロ対策など)

その他

(5-2) 設備維持規格委員会

1) 配管規格分科会

JPI-8S-1-2002 [配管維持規格]、JPI-8R-14 [耐圧気密試験]、JPI-8R-15 [フランジ・ボルト締付管理基準]の平成17年度改訂に向けての検討を行った。

2) 設備規格分科会

設備維持規格の作成及び関連 5 規格についての作成審議のための分科会が 24 回、設備維持規格委員会での審議が 4 回行われ、平成 15 年度に設備維持規格が発行される予定。今回の作成規格は以下のとおりである。

・JPI-8S-2(設備維持規格)は、既に発行している JPI-8S-1 [配管維持規格] とほぼ同構成とした。ただし、設備維持規格は扱うカテゴリーが多いため、第1部共通編と第2部機種別編(塔槽、多管式熱交、空冷式熱交、加熱炉、ボイラ、球形貯槽、安全弁)に分割して作成した。

3) 回転機維持規格分科会

装置委員会・機器分科会回転機専門委員会にて、当分科会設立のための検討を行った。

4) 認証制度分科会

石油学会設備維持規格を十分理解し、これを適切に運用する能力を有する設備技術者(設備維持管理士)の育成を石油学会として奨励・支援し、その技術レベルを認証する制度策定の検討を行った。

(6) 経営情報部会(経済、統計、経営、OR、情報、システム、環境)

1) 下記のWGを設け、調査・検討を行った。

a) 「移動体通信技術の最新動向調査 - 石油産業への適応可能性を探る - 」

DSRC (Dedicated Short Range Communication) の通信技術の動向調査およびSSへの適用可能性の検討を行った。またBluetoothの最新技術動向を調査し、Bluetoothにおける通信の有効距離、安定性の2点についてテストプログラムを作成し、実験を行った。

b) 「知識・ノウハウの共有化に関する調査・研究」

業務における技術伝承のための情報共有の現状および問題点の検討を行った。

2) 平成15年3月19日(水)に平成14年度に活動を行った上記2WGの活動報告会を実施した。

(7) エネルギー部会

平成15年3月24日(月)に「エネルギー部会講演会(水素クリーンエネルギー社会の構築を目指して - 水素製造技術の現状と課題 -)」を日本エネルギー学会と共催で企画し、実施した。

9. 認証部門

(1) 溶接士の認定事業

1) 本年度の新規認定者数は 1,936名で、現在までの累計認定者数は 125,688名である。

2) JPI認定溶接士の溶接功労賞表彰は四国地区から3名が表彰された。

3) JPI-7S-31-2003 [溶接士技量検定基準]を改訂した。

(2) 標準物質の認定事業

本年度の認定数は次のとおりである。

硫黄分	2,284
窒素分	208
ニッケル・バナジウム分	34
FIA用	62
軽油硫黄分	560
標準ガソリン	67
流動点	12
合計	3,227